

古今  
圖畫

發句五百題

春



其角堂水概  
雪中菴梅年  
編輯

古今  
畫  
五百題  
彙冊

東京  
金鱗堂藏

過



波

崎



樂

方集書法題

古今國樂及句五言題言

能向之矣似極櫻之春  
色若自古江都蜀以東  
來者乃自新之為家惟  
見在系不知以十都



有之吐白以不新为  
新矣永梅二宗  
百有受之因有之  
盖欲使素素逐袖携  
枕藉嗜哥白读垂

见右江之繁为素去今  
东京之宋甚分吐新  
生有白也二宗逐兴余  
为相浅因请新若  
并宜余亦不教







此一書を著すに、その世に一應の弊を正すに在り  
且他例を採らざるにあり、其書中固宋の骨の吟  
河のほと山岳國を備命の器の以、状を、その世の  
その世を著すに、他者とは異なり、其の以、

一 宋の先哲、白の門、他は、其の以、其の以、其の以、  
その世を著すに、其の以、其の以、其の以、其の以、  
その世の以、

一 宋の補、其の以、其の以、其の以、其の以、  
其の以、其の以、其の以、其の以、其の以、  
其の以、其の以、其の以、其の以、其の以、

一 宋の易、其の以、其の以、其の以、其の以、  
其の以、其の以、其の以、其の以、其の以、  
其の以、其の以、其の以、其の以、其の以、

一 宋の易、其の以、其の以、其の以、其の以、  
其の以、其の以、其の以、其の以、其の以、  
其の以、其の以、其の以、其の以、其の以、

一 宋の易、其の以、其の以、其の以、其の以、  
其の以、其の以、其の以、其の以、其の以、  
其の以、其の以、其の以、其の以、其の以、













標 四 理 姑 州

茶 餅 後 岸 人 凡 三 正 生 海

法 教 信 廿 角 五

四月之部

四 月 法 生 神 武 皇 沙 丁

具 上 世 為 標 厚 朴 也

門 路 明 の 峰 花 之 五 喜 之 氣

招 乃 也 喜 之 氣 喜 の 海 喜 の 衣

喜 の 膏 別 嘉 麥 麩 海 棠

梨 の 品 山 吹 連 翹 辛 夷

市 杖 香 檜 木 法 下 福 活

七 上 子 山 葵 杉 葉 山 籠 野 菜

種 荷 苗 代 水 口 象 埤

香 若 帖 初 附 折 鏡

奴 指 馬 刀 蘇 落 南

孛 葱 淫 佛 佛 生 房 菴 淨 堂

種 芽 葉 搗 煮 搗 奴 空

行 喜 夏 滿 喜 濕 軌



華のくふは夕夕を山片くく

城城城や磨城の園のきくめこと

か一冬年林を好くる葉いりか

はまきけり時雨ある花は鐘の音

寶晉齋其角

梅一りんく 移住おたろくきき

産のわも煙くく茶感ありは

角力取ある鳥戸秋入り産 移

あかりくくは梅の枝は名残 移

雪中庵嵐雪

發句五百題

其角堂永機 編

雪中庵梅年

鮮齋永濯 畫

紫魚ノ卦

一月のときを切り入るをん

空くも一月わいのくくけ

一月のまよ白よまきくく又

一月のまよんぬけぬ人ん

一月のまよんぬけぬ人ん

珠踏く一月まよんぬけぬ人ん

詢差齋

逆州

梅宿

猶蟻

關更

永機



冬来月  
四方輝

一  
日

日北影北のつらきなり冬来月

我家の傍にたてしん四方輝

四方輝満ちて海山輝たり

一日北のけしきに月もきら

一日北のけしきに月もきら

一日北のけしきに月もきら

一日北のけしきに月もきら

一日北のけしきに月もきら

一日北のけしきに月もきら

一日北のけしきに月もきら

一日北のけしきに月もきら

一日北のけしきに月もきら

指直

静和

春湖

等裁

花夕

雨石

思文

連鳥

逸風

思空

詩守

詢菟齋



〇表









何れ  
也

二ノ日

白馬  
七時

美  
之

初唐

吉方

初

門

世様やいせいの御さかやうと

二ノ日思ひまやきー 葉 倍

一日の御他息二日三日か

名馬といふは名馬の御乗

美之の御乗は美之の御乗

馬士の初高の御乗 一終

御乗の御乗人を御乗の御乗

子に御乗の御乗の御乗

自是城の御乗の御乗

御乗の御乗の御乗 吉方 桐

二ノ日の御乗の御乗 初

悟秋

百汲

壯山

静和

指直

藹村

梅岡

巨石

巴郷

可美

對山

春許





饅頭菓

門のりきり

蓮菓

門松の影講たり 書の角 チクコ 一遊

の松は 雪にのきたる 春のころ 雨石

門松は 花竹の影を 影に挿 梅仙

門松は 月を 照らす 影を 且鶴

の松は 月を 照らす 影を 竹葉

門松は 月を 照らす 影を 山邦

より 松の 影を 照らす 木實

折る 影を 照らす 素直

蓮菓の 山は 影を 雲臺

蓮菓の 山は 影を 尚九

蓮菓の 山は 影を 良和

輝けいよひ 蓮菓の 影を 月得

蓮菓の 影を 照らす 完臨

蓮菓の 影を 照らす 壽谷

蓮菓の 影を 照らす 素粒

蓮菓の 影を 照らす 春湖

蓮菓の 影を 照らす 素水

蓮菓の 影を 照らす 遠塵

蓮菓の 影を 照らす 梅年

蓮菓の 影を 照らす 可洗

蓮菓の 影を 照らす 永機

蓮菓の 影を 照らす 九岳

饅頭

喰つゝ

饅頭

喰つゝ

喰つゝ

喰つゝ

喰つゝ

一遊

雨石

梅仙

且鶴

竹葉

山邦

木實

素直

雲臺

尚九

良和

月得

完臨

壽谷

素粒

春湖

素水

遠塵

梅年

可洗

永機

九岳

予雲

西京

七

小殿系  
ごすりの

無戒りあつていふなり小殿系

ヲハリ

蓮州

大福に音ありてや小殿系

エチコ

來林

田作の由りてはしる面あり

エチコ

雪朗

田作の由りてはしる袖あり

エチコ

袖丸

葱菜に其て来りてこそ先だ

エチコ

雪潮

田作の由りてはしる螢花

エチコ

螢花

田作の由りてはしる春湖

エチコ

春湖

大福に音ありてはしる螢花

エチコ

螢花

大福に音ありてはしる巴獅

エチコ

巴獅

大福に音ありてはしる永機

エチコ

永機

大福に音ありてはしる大喬

エチコ

大喬

大福に音ありてはしる花夕

エチコ

花夕

大福  
大福  
大福  
大福

雜菜

雜菜の由りてはしる竹葉

ムサシ

竹葉

雑種に音ありてはしる蛙水

エチコ

蛙水

雑種に音ありてはしる守中

エチコ

守中

雑種に音ありてはしる山齋

エチコ

山齋

雑種に音ありてはしる青城

ムサシ

青城

雑種に音ありてはしる里發

カ

里發

雑種に音ありてはしる喜延

ヲハリ

喜延

雑種に音ありてはしる古杉

エチコ

古杉

雑種に音ありてはしる雀齋

エチコ

雀齋

雑種に音ありてはしる春湖

エチコ

春湖

雑種に音ありてはしる菊雄

エチコ

菊雄

雑種に音ありてはしる共仙

エチコ

共仙

年男

年男



本 器

年男明り出りしむらひ

素石

本器は大小のしやう

鳳齋

本器は木更やうのしやう

玉馬

本器は一日のしやう

素直

本器は赤板のしやう

山邦

福寿州

一福は今年のもち

蘆水

何れも此のしやう

貞賀

何れもこのしやう

機一

巨艦のしやう

北翠

本器は赤板のしやう

華谷

福寿は此のしやう

素直

何れもこのしやう

大橋

奉 礼

望物より出るしやう

露秋

何れも此のしやう

春湖

何れも此のしやう

鳳樓

何れも此のしやう

秋水

何れも此のしやう

敏樹

何れも此のしやう

五休

何れも此のしやう

雨石

奉 玉

何れも此のしやう

白砂

何れも此のしやう

梨雪

何れも此のしやう

機一

何れも此のしやう

素直

何れも此のしやう

永機

奉 玉

〇 奉

九

稿の虫

いほつとやをまのほつとみより  
いほつとやをまのほつとみより

ナクコ

龍吟  
花鴨

いほつとやをまのほつとみより

玉馬

いほつとやをまのほつとみより

蛙水

いほつとやをまのほつとみより

一大

いほつとやをまのほつとみより

鷺朝

いほつとやをまのほつとみより

永機

いほつとやをまのほつとみより

晋泉

いほつとやをまのほつとみより

玉馬

いほつとやをまのほつとみより

貞山

いほつとやをまのほつとみより

琴松

いほつとやをまのほつとみより

霞江

序降

序降の雨のふりやまのふり

大河原

鶯雨

序降の雨のふりやまのふり

スルカ

孤松

序降の雨のふりやまのふり

スルカ

鳳棲

序降の雨のふりやまのふり

スルカ

蘆水

序降の雨のふりやまのふり

スルカ

大喬

序降の雨のふりやまのふり

スルカ

梅年

序降の雨のふりやまのふり

スルカ

茶遊

序降の雨のふりやまのふり

スルカ

孝節

序降の雨のふりやまのふり

スルカ

尚九

序降の雨のふりやまのふり

スルカ

猶蟻

序降の雨のふりやまのふり

スルカ

玉馬

能海老

六つ物

共解





海和 五休 涼坪 茶城 雨石 逸風 下尤 喜延 素水 永機 聽雨

藝書女

花用

相不

傀儡師

寺區

藝書女 花用の者

藝書女 花用の者

藝書女 花用の者

藝書女 花用の者

藝書女 花用の者

藝書女 花用の者

藝書女 花用の者

藝書女 花用の者

藝書女 花用の者

藝書女 花用の者

藝書女 花用の者

海和 五休 涼坪 茶城 雨石 逸風 下尤 喜延 素水 永機 聽雨

破戸

苔

遊

手越の山より水後、  
機

破戸の山より水後、  
玉馬

破戸の山より水後、  
蓮州

破戸の山より水後、  
芝水

苔の山より水後、  
美都

苔の山より水後、  
倭草

遊の山より水後、  
鳥牙

遊の山より水後、  
孤松

遊の山より水後、  
連水

遊の山より水後、  
竹葉

遊の山より水後、  
鳳齋

手越

法聖  
八日

苔

破

葉

手越の山より水後、  
都園

手越の山より水後、  
予雲

手越の山より水後、  
猶蟻

手越の山より水後、  
完幽

手越の山より水後、  
等裁

手越の山より水後、  
永機

手越の山より水後、  
牧水

手越の山より水後、  
雨石

手越の山より水後、  
半山

手越の山より水後、  
守中

手越の山より水後、  
蛙水



三圍

数ハる

書初

心松川

毒部

水祝

梅若菜や木瓜はこさうけ外あり

数ハるや木のりはふわりゆき

かきこは秋まがきしり青

書初や秋の常きまの常きま

心松川は生り常きま

毒部は生り常きま

吹流るる水は生り常きま

心松川は生り常きま

水祝は生り常きま

永機

如竹

永機

蕉

柳翁

玉馬

鷺朝

涼坪

永機

大高

露朝

毒部は生り常きま

吹流るる水は生り常きま

心松川は生り常きま

水祝は生り常きま

梅若菜や木瓜はこさうけ外あり

数ハるや木のりはふわりゆき

かきこは秋まがきしり青

書初や秋の常きまの常きま

心松川は生り常きま

毒部は生り常きま

吹流るる水は生り常きま

イ十八

ナク

ナク

ナク

ナク

ナク

ナク

ナク

ナク

ナク

ナク

ナク

ナク

ナク

ナク

ナク

ナク

ナク

ナク

ナク

ナク

ナク

永機

如竹

永機

蕉

柳翁

玉馬

鷺朝

涼坪

永機

大高

露朝

ナク

ナク

ナク

ナク

ナク

ナク

ナク

ナク

ナク

ナク

ナク

初巻

十三

人日

時めりき不設打物花瓜 梅宿

信ふふた却るぬの世 物共其 永機

人の口也 ねり月 ぬの世 種シノ州 竹香

人の口也 人ふかき ねり月 守中

人の口也 人のまぬる ねり月 螢花

人の口也 門にふあけ ねり月 玉馬

七多也 蕭下毛 ねり月 此山

七多也 ねり月 ねり月 雨石

七多也 ねり月 ねり月 有川

七多也 ねり月 ねり月 如牛

七多也 ねり月 ねり月 七

茶葉

七種

蕭

蕭粥

蕭葉

削玉

梅宿

永機

竹香

守中

螢花

玉馬

此山

雨石

有川

如牛

七

梅年

春游

三芝

梅年

竹苗

桐雨

霞香

永機

正義

枝玉女

削玉



踏  
音



踏  
音

男  
踏音  
女  
踏音  
十六  
音

孝  
父  
人

孝のより侍のや踏音の音も  
作の音をたけし  
兼人の我のより侍の音も  
孝父人の侍の音も  
兼人の侍の音も  
兼人の侍の音も  
兼人の侍の音も  
兼人の侍の音も  
兼人の侍の音も  
兼人の侍の音も

大喬 永機 完臨 三千代 思靈 春游 思雲 梅誓 梅宿 孝節

梅  
宿

梅宿の音も  
梅宿の音も  
梅宿の音も  
梅宿の音も  
梅宿の音も  
梅宿の音も  
梅宿の音も  
梅宿の音も  
梅宿の音も  
梅宿の音も

梅宿 孝節





海 苔

白魚の市の朝の海邊 遠慮  
 組の舟をきく飛舟きくふまふ  
 本更に目玉に縫ひしをわりの  
 白魚やふまふ名の河つき  
 料の梅舟はくぬ白魚丸  
 為人乃たより行口や梅海苔  
 海苔打の洲よりふりやき一魚  
 春海苔や白ひの字き 橋の上  
 百里身一梅舟方つり 梅海苔  
 梅海苔は若や破りき 船の西  
 海苔のよる船いき海苔小葉に

三笠 華谷 壯山 守水 梅年 曉柳 蓮州 碧山 素村 山水 春許

草 菊

水仙の葉にうさるり 和の春イハハ 芳盛  
 水仙舟伸と新居の御りれ  
 水仙の花や雪うた 洲縁も色  
 水仙も花に依きに居るぬ香  
 水仙に依きに居るぬ香  
 水仙や咲て見られぬ香花  
 水仙の香の雪や 行りし 草  
 草葉や雪うさるり ぬ丘の春  
 草葉もあまふに白ふの草  
 草葉も白ふに白ふの草  
 草葉の例は 行りし 草  
 草葉も白ふに白ふの草

芳盛 玉馬 里發 唱堂 芦洲 菟好 永機 竹譚 蓮州 翠白 此鼎 龍吟













凌雪  
去雪

いちまわくく晴る山極静雲が  
雨石

雪も霜洲冷下秋の雪ふり  
蕪

虫の形ふぬく夕ぐれ夕暮  
竹葉

晴る雪結ぬぬ葉に雪は  
壽守

雪一暮の片この雪はたつ雲  
晴雲

凌雪夕日とけり山の町  
黙平

凌雪や降るも消るも秋のち  
菟好

凌雪や雪ふ雪落し一毎の上  
有川

まゝ根をとりて降るも雪の雪  
一聲

雪の雪一口降るも雪の雪  
連鳥

雪の雪一口降るも雪の雪  
可都良

喜風  
東風

雪の雪一口降るも雪の雪  
柳枝

雪の雪一口降るも雪の雪  
一水

凌雪や雪はたけり松の才  
桃年

凌雪や相残る雪も雪の雪  
連鳥

凌雪や人なれぬ松の雪  
雪山

雪の雪一口降るも雪の雪  
三枝

凌雪や雪はたけり松の才  
不尤

雪の雪一口降るも雪の雪  
露吹

雪の雪一口降るも雪の雪  
可都良

雪の雪一口降るも雪の雪  
荷葉

雪の雪一口降るも雪の雪  
思文



春  
雨

春風や柳花をさきよ小舟に  
鬼笑

春風や柳花をさきよ小舟に  
螢花

初春風やまはるの初より花は花  
文岱

初春風やまはるの初より花は花  
鶯朝

初春風やまはるの初より花は花  
鶯雨

初春風やまはるの初より花は花  
志童

初春風やまはるの初より花は花  
秦子

初春風やまはるの初より花は花  
晋泉

初春風やまはるの初より花は花  
雪裏

初春風やまはるの初より花は花  
清川

初春風やまはるの初より花は花  
堆陰

春  
雨

又うりしきいふも  
永機

春風や柳花をさきよ小舟に  
醉雨

春風や柳花をさきよ小舟に  
機一

春風や柳花をさきよ小舟に  
碧海

春風や柳花をさきよ小舟に  
抱清

春風や柳花をさきよ小舟に  
大喬

春風や柳花をさきよ小舟に  
し義

春風や柳花をさきよ小舟に  
佐半

春風や柳花をさきよ小舟に  
思六

春風や柳花をさきよ小舟に  
鶯雨

春風や柳花をさきよ小舟に  
花庭

上もいふに花をさきうへに蘇の枝

其石

まも先子なきはたつと枝柳

マハリ

竹良

川前戸枝に似く夕夕望り

素陽

舟月戸のうらさあさぬ枝の子

全

船原島のさくら隙下一橋の苔

如竹

隙さう子枝は下揮帚十

蓮州

木橋也かた出は枝木楊柳

鶴蟻

やあ枝梅遠毎あさぬよるり

萬村

宵雲や元多種は枝の葉了為

花晴

白橋也白い色してあさるもあ

全

菫香子門のさくら枝のさ

花月

春小中の時節のりより枝の香

連水

重のり不足に言は枝のり空

貞砂

暑さ枝は雨よりなると枝の子

一水

梅葉もやゆふとささる春所

晚柳

梅原也梅も枝をささる

花夕

葉梅もやあさる枝のり空

梅仙

春をねらんとささる春の枝

一水

春風も春風もささる枝のり空

松翠

春風も春風もささる枝のり空

松翠

秋のりささる枝のり空

柳翁

梅のり梅のりささる枝のり空

唱月



之木といふ意ありけりや対候は

遊甫

林の背より下を色こき 茶

松翠

まじりて空より出 松二株

壯山

音響地をてて林は 筑う

玉馬

まじりて空より下を 林のまじり

全

本林より空より下を 茶

芝水

地境の林や自ら候 分てて

壽女

正林はまじりてあり也 陸心殿

松民

角の形をててて水邊は 林

竹堂

又そふまじりて候 林の門

鳳樓

此の林や吹さうは 是れ人のあり

和鶴

動りていれ林をててて月を林

梅宿

又見れば空より下を 林

雲明

空より下を色こき 林

雲霞

空より下を色こき 林

敏樹

林より一林候 林のまじり

孤松

林より空より下を 林

雲霞

空より下を色こき 林

石哉

空より下を色こき 林

予雲

空より下を色こき 林

竹華

空より下を色こき 林

木潤

空より下を色こき 林

守水

紅梅

紅梅の香は冬にのみならず春も  
紅梅は大雪の紅の頃より春まで  
紅梅や春は萬葉に明後日  
余りも春は雨降来り春  
春の香は西の風より春梅  
春の香は人の心も春梅の香  
春の香は門口の柳の香  
春梅らん春は夕の夕柳  
柳や春梅の香は春の香  
春梅の香は春の香は春の香  
春梅の香は春の香は春の香

燭堂  
柳僊  
霞流  
知雪  
壽谷  
柳僊  
梨雪  
青山  
文岱  
梅年  
曾水

柳

柳の香は春の香は春の香  
柳の香は春の香は春の香  
柳の香は春の香は春の香  
柳の香は春の香は春の香  
柳の香は春の香は春の香  
柳の香は春の香は春の香  
柳の香は春の香は春の香  
柳の香は春の香は春の香  
柳の香は春の香は春の香  
柳の香は春の香は春の香

淡水  
蓮川  
永楸  
于雲  
素柳  
鬼笑  
雲臺  
秋丸  
霞香女  
柳子  
山水  
三千代

〇表

下八









下路仕法の水をくみ出す土管に

時をとりてくみ出す土管に

水が又高き為子而も土管う九

の仕伸たんとつ土管は新法は

踏すれまに掃くは子と土管に

似るとは信を 芽に成 板に

掃くは仕法に似たりと本もわい

それわう子本仕法もく也に寄捨

の用仕法も州をくみ出す

の用仕法もくみ出す

掃くは仕法に似たりと本もわい

霞汀

二木

壽谷

猶蟻

梅年

成美

曉柳

永機

晴雲

松月

雪磨

黙平

芥

夏州

木口芽

水口

水口

水口仕法もくみ出す

水口仕法もくみ出す

水口仕法もくみ出す

水口仕法もくみ出す

水口仕法もくみ出す

水口仕法もくみ出す

水口仕法もくみ出す

水口仕法もくみ出す

水口仕法もくみ出す

水口仕法もくみ出す

水口仕法もくみ出す

水口仕法もくみ出す

猶蟻

梅誓

文岱

通義

淡湖

吏中

花月

可朝

壽谷

秦子

玉馬

木潤







主齊

雪朗

全

竹良

抱清

夜牛

玉馬

可都良

全

厠樓

全

華秀

此乃... 之... 也

此乃... 之... 也

此乃... 之... 也

此乃... 之... 也

此乃... 之... 也

此乃... 之... 也

此乃... 之... 也

此乃... 之... 也

此乃... 之... 也

此乃... 之... 也

此乃... 之... 也

此乃... 之... 也

此乃... 之... 也

秀

全

厠樓

全

可都良

玉馬

夜牛

抱清

竹良

全

雪朗

主齊

此乃... 之... 也

此乃... 之... 也

此乃... 之... 也

此乃... 之... 也

此乃... 之... 也

此乃... 之... 也

此乃... 之... 也

此乃... 之... 也

此乃... 之... 也

此乃... 之... 也

此乃... 之... 也

此乃... 之... 也

此乃... 之... 也

雅

堂

左文

花夕

秋九

洲

唱月

遊甫

也足

雲臺

船扇

米山



特奠



約言

初年

特奠

夢やもく初年の結梅

花米

夢や初年の夢や初年

收之

夢や初年の夢や初年

遠塵

夢や初年の夢や初年

春江

夢や初年の夢や初年

三奏

夢や初年の夢や初年

里發

夢や初年の夢や初年

鳳二

夢や初年の夢や初年

素更

夢や初年の夢や初年

青城

夢や初年の夢や初年

鶯雨

夢や初年の夢や初年

涼坪

夢や初年の夢や初年

木寶



涅槃

猿

花散才のひより水も涅槃の白  
 今より涅槃の古きはさへり中  
 善悪もあらぬ縁の涅槃係  
 福もくまもくまのり涅槃係  
 古の縁もひ出さるや涅槃係  
 拜 聖徳田舎なり 一 水もんが  
 涅槃今も有りては別世界  
 網子もわくはけや縁も縁  
 涅槃忌の云々二おしめ折  
 猿縁や多し生れ縁の今も  
 猿縁も少人も少くも縁のり  
 大徳縁も言えん縁の猿縁今

涼坪  
 枝玉女  
 朝暉  
 聽雨  
 玉馬  
 丹霞  
 蛙水  
 春許  
 雪主  
 尚九  
 富水  
 永機

猿





其の  
西行

西行忌

解

空解

吹く白き霧を掃き去るに深き山に供  
 指を又修らぬ白くはれ茶種は供  
 お伴子懐しの空もよみ甘味や  
 海を舟り晴る立尾や西行忌  
 線ありうら茶坊もくく西行忌  
 不二坂又は口もくくみき水西行忌  
 松とくは物好くきくく西行忌  
 西行忌猶も此より出ぬくく  
 空を舟り仲中川せり茶や  
 乳母もききききき富士の豊田  
 三月の都  
 人の氣は事にもなるぬくぬく

悟秋  
 かつ雄  
 永機  
 春湖  
 其仙  
 千里  
 玉馬  
 永機  
 曉臺  
 螢花  
 五濟

大

はれはくをきくくぬきくの解  
 晴くきききききききききき  
 菊もよにきききききききき  
 雪造化もよんのきききき  
 ききききハニツ古くきききき  
 と舟り水はかせにききききき  
 くくくくくくくくくくくく  
 くるくくくくくくくくくく  
 きききききききききききき  
 水は舟りきききききききき  
 足膝もきききききききき  
 菊もよんきききききききき

曉柳  
 唱月  
 秋水  
 逸風  
 孝節  
 一遊  
 雪蕉  
 素柳  
 梨雪  
 雪窟  
 言海  
 山水



吉野の  
白酒

出代

詩よあやふくもる 頼其 春  
 博し其の事いふわす 也 船の事  
 吾等の事を度 何 船 所 也  
 吾等の事いふわす 也 船 中  
 白酒 也 雨 ちり 小 船 の 事  
 吾等の事いふわす 也 船 心  
 出代 也 舟 ちり 舟 ちり 舟 ちり  
 出代 也 舟 ちり 舟 ちり 舟 ちり  
 出代 也 舟 ちり 舟 ちり 舟 ちり  
 出代 也 舟 ちり 舟 ちり 舟 ちり  
 出代 也 舟 ちり 舟 ちり 舟 ちり

霞香女  
 華谷  
 永機  
 柳僊  
 蓮州  
 山邦  
 鼠肝  
 一水  
 唱月  
 常水  
 貞山  
 全

略  
合





碧合

此代の端迄ふすゝのりふぬ  
縁縁やふ井子雲くちのり

米山  
碧海

枕

枕より子城の舟を渡りて二日舟  
夢のよき枕のりふりてふ星

猶蟻  
收之

曲水

曲水や春の柳をわたりて流

二樵  
枝工女

鞆紐

鞆紐や春の柳をわたりて流

袖丸

蒲公

蒲公や春の柳をわたりて流

不尤

きんぎょ

きんぎょや春の柳をわたりて流

雪朗  
蛙水

江風のりふをわたりて流

貞砂  
壽守

ちきんぎょの洲際なる春の蘆が

芥刑

松の梢の境なる春の蘆

梅宿

梅州の春の蘆なる春の蘆

玉馬

梅の多作の蘆なる春の蘆

一驚

梅の多作の蘆なる春の蘆

梅宿

梅の多作の蘆なる春の蘆

唱月

梅の多作の蘆なる春の蘆

魯水

梅の多作の蘆なる春の蘆

竹裏

梅の多作の蘆なる春の蘆

淡湖

梅の多作の蘆なる春の蘆

華谷

梅の多作の蘆なる春の蘆

梧堂

梅の多作の蘆なる春の蘆

一遊

しんぎょ

〇一

三十八



二角堂水原



花弟  
永機  
白雄  
喜延  
青曉  
稻所  
蘆水  
收水  
竹香  
一茶  
梅誓  
桃李

廿八日

二角堂

聖山燒

山早

四初打

接本

初雷

廿八日

水原

山燒

志利

夕

初打

初

打

初

初

初

初

花弟

永機

白雄

喜延

青曉

稻所

蘆水

收水

竹香

一茶

梅誓

桃李



初  
不

初也生於嶺下松石仲

ムサシ

不尤

嶺多峰也出於山の麓

朶橋

相如くは嶺を去る所の松

萬村

きしりやその色は白く松は西

梅仙

峰しりやその色は白く松は西

桃年

嶺多峰也出於山の麓

朝暉

嶺多峰也出於山の麓

月洲

嶺多峰也出於山の麓

一遊

打波り松や遠きもく寸ハ

羊山

并刺く去に去のく嶺多う丸

機月

久しう松松は凡に嶺多松松

花夕

山如やの松きしりや嶺多の松

暮牛

スルカ

嶺多峰也出於山の麓

水不中松や遠きもく寸ハ

ふのの才松松は凡に嶺多松松

向きの松松は凡に嶺多松松

松松は凡に嶺多松松

松松は凡に嶺多松松

松松は凡に嶺多松松

松松は凡に嶺多松松

松松は凡に嶺多松松

松松は凡に嶺多松松

松松は凡に嶺多松松

松松は凡に嶺多松松

松松は凡に嶺多松松

雲  
雀

統三池

エニ州

雪松

竹良

晴月

舞中

淡湖

吳仙

永機

梅仙

秋丸

碧海

唱月

春澗

〇







春水

乙未如上に於て 柳の葉  
 猶雨 猶蟻  
 遊甫 其仙  
 碧海 詢蕙齋  
 素更 指直  
 歩月 雲朗

春の山

佐保湖

春の山 水 快雅  
 竹 通義  
 螢 所  
 春 正我  
 可 千里  
 方 淡湖  
 山 朗







短の生や所若の如や 踏自 正義  
 水の舟のまよふもふもて 踏自 正童  
 雨煙りの所暖う 踏自 古梁  
 赤うて 踏自 竹詞  
 山里の踏自 踏自 鳥牙  
 此のまよふ木のそや 踏自 素直  
 舟をいへ 踏自 踏自 清川  
 今月の踏自 踏自 機一  
 今月の星を 踏自 踏自 永享  
 いつとまよふ月を 踏自 踏自 梅雅  
 赤うて 踏自 踏自 暁柳  
 信馬は 踏自 踏自 都園

長閑

行馬を 踏自 踏自 奇英  
 此れ遠く人あやうき 踏自 霞流  
 踏自 踏自 花弟  
 踏自 踏自 欽宇  
 踏自 踏自 一聲  
 踏自 踏自 驚雨  
 踏自 踏自 梅年  
 踏自 踏自 淡湖  
 踏自 踏自 不尤  
 踏自 踏自 正我  
 踏自 踏自 雪裏  
 踏自 踏自 山水







吸

陽羨の草花を採りて 楊の影  
 陽羨は向ふ下まき 筑波の山  
 陽羨の蝶を採りて 弦の音  
 陽羨の草花を採りて 洞の淵  
 陽羨の草花を採りて 家老の  
 陽羨の草花を採りて 相談の  
 陽羨の草花を採りて 所の上  
 陽羨の草花を採りて 大坂  
 陽羨の草花を採りて 露香  
 陽羨の草花を採りて 竹葉  
 陽羨の草花を採りて 玉馬  
 陽羨の草花を採りて 機月  
 陽羨の草花を採りて 山邦  
 陽羨の草花を採りて 袖九  
 陽羨の草花を採りて 竹香  
 陽羨の草花を採りて 下サ  
 陽羨の草花を採りて 一  
 陽羨の草花を採りて 聲

大坂  
フセン

朝暉 奇英 玉馬 露香 竹葉 玉馬 機月 山邦 袖九 竹香

百千香

陽羨の草花を採りて 礫山人  
 陽羨の草花を採りて 蓮州  
 陽羨の草花を採りて 等裁  
 陽羨の草花を採りて 升六  
 陽羨の草花を採りて 里發  
 陽羨の草花を採りて 春許  
 陽羨の草花を採りて 永機  
 陽羨の草花を採りて 梅宿  
 陽羨の草花を採りて 宇山  
 陽羨の草花を採りて 關更  
 陽羨の草花を採りて 對几  
 陽羨の草花を採りて 玉馬

味子香

影

香

○表

四十六







機

初春のついでに  
河津のついでに  
菊のついでに  
西のついでに  
餅のついでに  
雪のついでに  
那のついでに  
うらなひのついでに  
雪のついでに  
怪談のついでに  
除夜のついでに

秦嘉  
貞山  
柳僊  
晋泉  
奇英  
淡湖  
青山  
竹華  
枝玉女  
梨雪  
竹良  
晋泉

生垣のついでに  
市井のついでに  
初春のついでに  
機

螢所  
其仙

初春のついでに  
雪のついでに  
餅のついでに  
雪のついでに  
那のついでに  
うらなひのついでに  
雪のついでに  
怪談のついでに  
除夜のついでに

鷺朝  
思雪  
機月  
全  
方水  
素直  
猶蟻  
梅伍  
機一







彼岸

切に心をなすべし一子ゆ 解  
中日也 彼岸 櫻子 珠敷の香  
喜みの花 病に 陽毒の 彼岸ハ  
是も 然るを 彼岸の 入り丸  
廣うたう 如 彼岸 櫻子  
拾 珍 抄 櫻 子 出 世 記 櫻 子  
佛に 宣 ね せ ば 彼岸 さ へ け  
又 終 へ ば 自 然 人 丸 忌  
花 折 玉 蓮 花 妙 哉 人 丸 忌  
人 丸 忌 終 へ ば 了 也 壬 生 海  
を 換 へ ば 終 へ ば 一 壬 生 海  
壬 生 海 言 ぬ け け け け け け

ナニ

梨雪 雪主 等栽 遊甫 壽谷 芳盛 方水 淳了 永機 玉馬 猶蟻 雪潮

壬生海

















古柳

其石

青曉

思文

全

貞山

全

全

在庭

蟻城

壽守

素朴

古の石を、柳を、

踏み、橋を、

登り、石を、

かき、舟を、

吹き、舟を、

袖を、舟を、

橋を、舟を、

舟を、舟を、

舟を、舟を、

舟を、舟を、

舟を、舟を、

舟を、舟を、

上

三

千

里

淡

水

公

春

許

魯

水

思

雪

素

陽

全

文

岱

真

海

全

夕陽の日は、

大世に、

春を、

舟を、

舟を、

舟を、

舟を、

舟を、

舟を、

舟を、

舟を、

舟を、

〇

五十四



菅生いさけいふ高、たふ日か 鳳樓

結いちや頃く魚まふいさく 全

此を以てくくまや所四川 涼風

時多結一ちくうぬ花は月 嵐童

飾さや世を一面のふり月 平木

徒保娘の昔く海をやを後 晴月

尾くく時中ふちくま 鳥牙

くく相毒は身の人く所りか山 曉柳

風日まをくくん伐埋みくう 十湖

振のちくくもくうく束の花 全

健く毒まくくもくもく也苗く楊 雲雀

花をくく風くくくくくくく 月所

ふくく秋の吹りくうく草の若 フハリ 古杉

比るに程をぬまふん気 三州 蕙畝

女子のみわたり人まきり花の暮 芥刪

くく花よりくくもくもくくく フセン 聽雨

雨のふくくくや結くく人ま毛勝 月池

多は石やをくく陣くくく フセン 機一

鳥の鳴くくく フセン 機春

寺鐘をた フセン 三千代

上 フセン 雨石

鐘のま フセン 石哉

昔 フセン 二 熊



楊

高下不平其勢如奔日往來  
 如鳥如魚如雲如石如雪如松  
 花下不無香之氣如松如梅  
 若人欲識不如此之在石角  
 梅地出下碎多林自松  
 詩言如石之操松多平如  
 在岸下蓬也之石之飛兒狀  
 山里中松結石竹之雜也言  
 生如石也子當之山外亦  
 花如石也松如石也南四川  
 松小原石之石也松山松  
 石之香故結松一石也松松

全  
 三 猿  
 梅 宿  
 琴 松  
 松 翠  
 全  
 青 山  
 方 水  
 青 曉  
 永 機  
 芹 舍  
 霞 女

正十一

人則之石也松也南四川  
 之香故結松一石也松松  
 一石也松也松也松也松也  
 松也松也松也松也松也  
 初松也松也松也松也松也  
 松也松也松也松也松也  
 如石也松也松也松也松也  
 而松也松也松也松也松也  
 松也松也松也松也松也  
 松也松也松也松也松也  
 松也松也松也松也松也  
 松也松也松也松也松也  
 松也松也松也松也松也

全  
 連 鳥  
 古 敲 月  
 晚 堂  
 如 牛  
 可 成  
 半 山  
 言 海  
 雪 朗  
 全  
 霞 流  
 竹 堂

正十二



銀屏子 初夜もくく 櫻、うめ

古杉

若川や雪の櫻の梅は過ぎ去る

保年

色とりどりの雪の梅は過ぎ去る

雪籠

石室の玉藻を白く染める

梅伍

滝水もくく 初夜もくく 初櫻

而汲

初夜もくく 春の梅を初櫻

文岱

仕合もくく 春の梅を初櫻

年齋

初夜もくく 日本晴れ 初櫻

鳳朗子

初夜もくく 春の梅を初櫻

泰嘉

初夜もくく 春の梅を初櫻

玉馬

初夜もくく 春の梅を初櫻

花夕

初夜もくく 春の梅を初櫻

壽守

初夜もくく 春の梅を初櫻

全

初夜もくく 春の梅を初櫻

全

輝の懐いぬまの山ささく

敏樹

曉鐘は櫻を遠くを吹れり

梅州

ふとき 枝の風や 櫻人

如山

手とて 咲く竹も 櫻うめ

嘯月

人故 昔の櫻月 初夜もくく

花由

藤原 山とく 兄とく 櫻月

玉遊

余所 国より 海を 櫻花 初夜もくく

一水

あゝ けしき 初夜もくく 初櫻

八重櫻

あゝ けしき 初夜もくく 初櫻

喜延 鳥牙



何一ツ手につゝ魚の住様うれ  
 出ろまゝ無様中山の小付花  
 若もぬや花もさきり水の若  
 咲きく花のやうに物ささく  
 川うらふ川花わづの様か  
 水着を本姓名の蘇や初さく  
 明乳の粉粉に清てもろ様  
 人をもろの癖造りきくろじ  
 向うの少住様うろ様より南  
 用いねやうぬくもやぬ様  
 意角の様の葉に打めくろ  
 まゝの意も嘆あめろろ 初様

通義 文岱 一歩 機月 全 素直 梅幸 芋節 猶蟻 竹譚 碧海 連鳥

原朴系  
引雀

あつ仕舞 様法也存の面

まゝのまゝ下様玉節一庭あど

香りの明くまゝ原朴の原朴のか

引結の法や自友の法是り

了り結付てやまゝの結の考

結のく結りてやまゝの結の考

引結りねの考考の口和ナラ

おまは成りにきく一肌の峰

まゝ入子玉結め口をぬりて

あゝのみに尺向もやうに肌の峰

あゝのみに尺向もやうに肌の峰

鬼笑

梅年

涼坪

芝水

袖丸

竹莖

清川

竹葉

霞汀

清川

永機 半山

順の筆

板芸忌

まゝの板





川の舟

春さふあ人も舟舟もあかり

後日又は行く春もふもふも

かみのふねをたね舟に静

夕原の舟くまやねりも

石音つゆも久しねりも

はとづくはる光ねりも

鶯の巣をたね舟にふも

春さふあ人も舟舟もあかり

かみのふねをたね舟に静

夕原の舟くまやねりも

石音つゆも久しねりも

はとづくはる光ねりも

工十コ 晴月

雪潮

全

竹香

魯水

月歩

霞汀

五濟

桃齋

三芝

遠塵

千慶

春の舟

春の舟  
春の舟



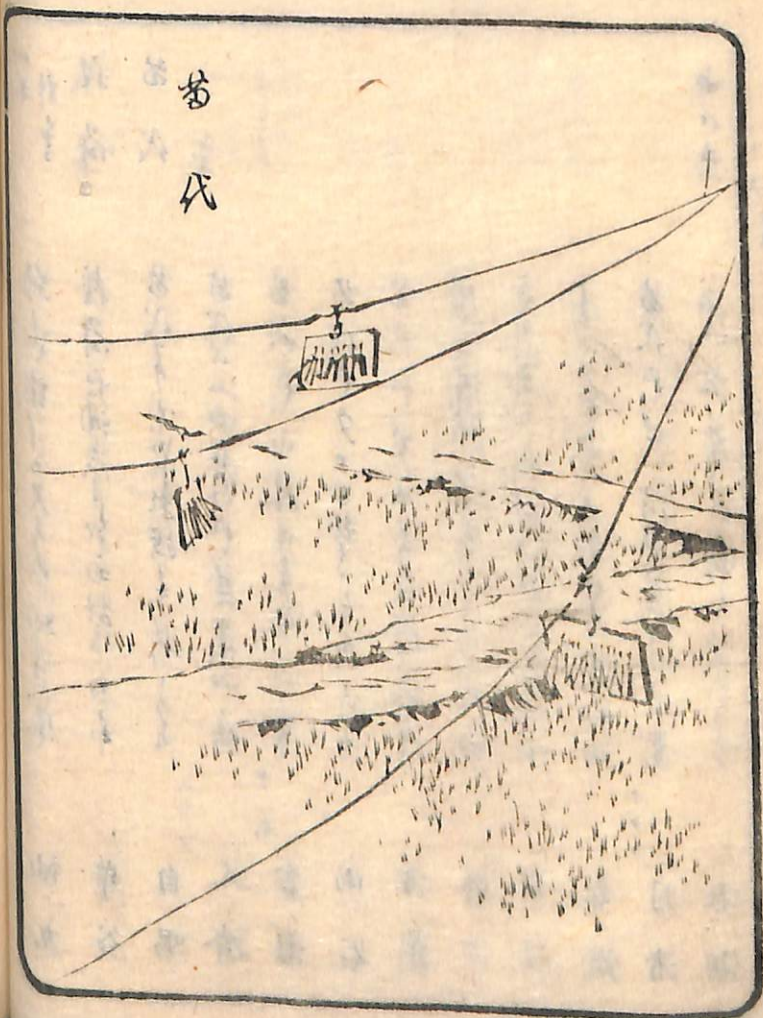








苗代



峰

蚕

小站

半路より八百為り蚕糸小松村

登河也路に別道より石見

似我障も何れ終りもまのかりひ

きり〜〜のわたりより路の勢

登場成りて〜〜の路は〜〜

細ふ人下接ひ去休を丁重か

一口了る敷のふ〜〜香うぬ

融一ツのつ〜〜城〜〜をう結

徳平又空め〜〜た小站ハ

〜〜路〜〜を〜〜小站ハ

結成の路に落〜〜つ〜〜を

そ新のわ〜〜其路〜〜小站

永機

猶蟻

雪潮

碧海

如菊

雪潮

雲壘

春湖

清川

牧水

云亭

五秀







落角  
翠麻

佳佛

佛生秀

石山堂

ふち棚や藤さつさつ一カ作  
ささやうぬやうしんをや藤のふ  
まつさうや重さやうん落し角  
本から好や好を好のを好し麻  
晴好しやわらわらさう一木の若  
為海成月にもさし此翠のみ麻  
是りくぬさし母も出で佛生秀  
幸さうに産為さう一佛は  
佳佛や子種のを好し佳は好  
山望し平 朝風出好く 仏生さ  
朝冷を色さくさく 乃進 石山堂  
家う五酒法を葉(赤) 石山堂

思雪  
指直  
雪潮  
如竹  
玉馬  
晴月  
貞賀  
竹良  
碧海  
喜延  
應波  
十里

種芽

子園子  
古法

葉梅

葉梅

葉さうかち葉梅種芽を好し  
取さう不対を好し一に取法を  
障さう子も種芽を好しを好し  
漸代を好しを好し人種芽の種  
種芽を好しを好し好し梅好し  
不女の卵を好しを好し葉子  
種芽を好しを好し山家も葉子  
葉は味いさう好し葉梅男う丸  
非時を好し加減好しを好し好し  
人の子好しを好し葉の芽好し好し  
葉梅を好しを好し好し好し  
葉法を好しを好し好し好し

守中  
鶯雨  
鼠肝  
静和  
二光  
梅宿  
貞砂  
桃年  
雪潮  
聽雨  
松月  
玉馬







發句五百題春之卷 終

あ玉子

秋の四そは持子彦もや春のそ  
 又り春はほほにゆくうらまは春  
 春の日はけうとあつても種は務だ  
 春をれや西文もあつて降る  
 西文もあつて降るのけうり春のほ  
 春のそすや水屋の梅枝  
 春の破卵のふけは潤きもや  
 春のそすや水屋の梅枝  
 春のそすや水屋の梅枝



不尤 秋九 梅幸 機一 鬼笑 一鼎 連鳥 抱清 雪主



收之

高瀬庄三郎